

2024 年度事業報告書

2024 年度は物価の高止まりに加え、最低賃金の 50 円引き上げもあり、かかる経費は増加の一途であったが、報酬改定では居宅介護・地域密着型通所介護は微増にとどまり、訪問介護に至っては全国的にヘルパーの担い手が少ない事による職員不足、事業所の経営がままならないというところも多い中、報酬減という結果であり、我々の活動が報われない形になった。

そのような中でも、地域のニーズに応えるべく、効率良く職員配置をし、最大限利用者の希望に応じたサービスを提供できるように工夫をしながら月平均約 250 名の方にサービスを提供した。処遇についても、7 月の処遇改善加算の一本化を機に、今まで取得できていなかった、処遇改善の上位加算を取得し、賃上げを実施、経費についての行政からの補助もなく節約をしながら乗り切った。

町内居宅介護支援事業所が人員の都合により廃止という出来事もあり、地域事情の変化もあった 1 年であった。

2024 年度事業計画に掲げた事項についてはおおむね次の通りであった。

1. 現行の介護保険事業・障害福祉事業・外出支援事業の着実な実施。

介護保険事業・障害福祉事業・外出支援事業共に前年とおおむね変わらぬ水準で実施することが出来た。

2. 職員の処遇改善

2024 年 6 月までは処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算の 3 本立てであった処遇改善加算が 7 月より処遇改善加算に一本化され、6 月まで取得できていなかった分の加算も取得し処遇改善加算ⅠまたはⅡを算定、それにより加算率も増加、職員の給与に反映し 2024 年度常勤職員給与を 2023 年度より約 2%増加を果たした。

家族の介護をしながらの職員も複数あり、フレックスタイム制の活用、介護休暇取得の促進等しながら働きやすい職場づくりを行っている。

3, 事業所会議・ケース検討の実施

参集型のヘルパー会議を廃止したが、各事業所の管理者・主任等によるリーダー会議をほぼ毎月行い情報共有、問題解決に努めた。事業所会議・ケース検討については数回の開催のみで頻回には行うことが出来なかった。

4, 行政や医療機関・他の事業所との連携

職員が京丹波町地域包括ケア推進委員会、京丹波町地域 SDG s 活動推進協議会、デイサービスほほえみ運営推進会議等の行政機関、他事業所の会議に出席し、地域課題の解決等に向け議論した

5, 「親なき後」の障害者自立支援に向けての新規事業の可能性の検討

ここ数年引き続き調査・研究を行っている障害者福祉関連事業について京丹波町と度重なる意見交換を行い、拠点の創設に向け交渉を進めたが、具体的なことは決まらず、次年度引き続き調査・研究を進めることとなった。

対象者の声を聴くため、協力者・職員有志がボランティアで「くつろぎカフェ」を開催。3回の開催で対象者、同伴者延べ36人の参加があった。

6, 情報発信、会員、協力者の増加、アルバイトや職場体験の受け入れ

職員の募集を常に行ってきたが、特に課題となっている訪問介護員の増員には至らなかった。

デイサービスで高校生アルバイトを2人受け入れ、2人ともに新年度より医療福祉系の学校へ進学する事となった。

同じくデイサービスでは3月に、中学生1人の職場体験の受け入れも行った。

7, 感染予防策、災害への備え

昨年度策定した、業務継続計画の周知を行い、それを用いての研修を行った。

感染症については委員会を2回、全職員向けに研修も行ったが、年度末にデイサービスにてコロナ感染症がまん延。利用者、職員計15人が感染し、感染予防対策に課題が残る結果となった。

3月に事務所職員がコロナに罹患した際は在宅勤務も活用し対応した。

以下、項目別に報告する。

◆会員

年度末時点の会員数は次表のとおりである。正会員 61 人のうち 42 人が役員及び職員で、それ以外が 19 人となっている。

賛助会員は 1 社増の 14 社。

	本年度末	前年度末
正会員	61 人	60 人
協力会員	11 人	12 人
賛助会員	14 社	13 社

◆機関会議

①通常総会

日時：2024 年 5 月 25 日(土)10 時 00 分～11 時 45 分

場所：京丹波町商工会瑞穂支所

出席：正会員 61 人中 52 人出席(本人出席 26 人、委任状・書面表決 26 人)

議題 第 1 号議案 2023 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 2023 年度活動決算承認の件

第 3 号議案 2024 年度事業計画承認の件

第 4 号議案 2024 年度活動予算承認の件

第 5 号議案 理事 7 名選任の件

第 6 号議案 監事 2 名選任の件

来賓に畠中源一京丹波町長を迎えて開催し、全議案とも原案通り可決承認を得た。

②理事会

年間 3 回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第 1 回 2024 年 5 月 11 日(土) 通常総会提出議案について

第 2 回 2024 年 10 月 15 日(火) 上半期の活動状況と下半期の活動について

第 3 回 2025 年 3 月 13 日(木) 決算見込と障害者グループホームについて

◆職員

①常勤職員

年度末で常勤 1 名が非常勤に雇用形態変更。2024 年度末時点で事務局長 1 人、ヘルパー部門 3 人、ケアマネジャー 3 人、デイサービス 3 人の 10 人である。

②非常勤職員

新規採用は、6 月と 9 月に 1 人外出支援運転員として、1 月にデイサービス看護師を 1 人採用した。

年度末に訪問介護常勤職員 1 人が非常勤になり、デイサービス看護師 1 人が退職し、

年度末時点で 27 人である。

◆委員会

虐待防止・身体拘束排除、感染症については委員会を設置し、虐待防止・身体拘束排除委員会は 11 月と 2 月、感染症対策委員会は 7 月と 9 月に委員会を行い、それぞれ全体研修を行った。

◆研修

①内部研修

職員による研修班を組織し、職員自身の企画・運営により次表の研修を実施した。

時期	テーマ
7 月	感染症
9 月	認知症
10 月	事故発生予防・発生時・緊急時・非常災害時の対応（BCP）
11 月	倫理及び法令遵守
2 月	接遇及びプライバシー保護
3 月	身体拘束・虐待防止

②外部研修・会議出席等

以下の会議に出席し、研修に参加した。

時期	テーマ	主催
4 月	身元保証と成年後見制度の比較	日本ケアコミュニケーション
5 月	障害者に関する交流会	NPO 法人スマイル
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
6 月	高齢者・障害者施設向け感染対策オンライン研修	京都府
7 月	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
	京丹波町地域 SDG s 活動推進協議会	京丹波町
	身体拘束に関する研修会 身体拘束を徹底理解	エクサホームケア
8 月	京都府相談支援従事者現任研修	京都府
	京丹波町地域包括ケア推進委員会及び京丹波町地域包括支援センター運営協議会並びに京丹波町地域密着型サービス運営委員会	京丹波町

	がん薬物療法を受ける患者さんのおうちでの過ごし方	京都中部総合医療センター
	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
	高齢者のための熱中症対策	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
9 月	ヘルパーが学ぶ人生の最期を支える看取りケア	京都府ホームヘルパー連絡協議会
	京都府機能訓練指導員研修会 食事のポイントを知ろう	京都府リハビリテーション支援センター
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
	介護労働者の雇用管理責任者講習	タスクール plus
	安全運転管理者講習	京都府警察
	民生委員とケアマネジャー等との懇談会	京丹波町
	成年後見制度研修会	京丹波町
10 月	南丹圏地域における在宅医療の現状と課題	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
	介護労働者の雇用管理責任者講習	タスクール plus
	介護支援専門員更新研修	京都府
	「なにがなんでも在宅」から「できるだけ在宅」へ	京都中部総合医療センター
	京丹波町内の住民主体の移動支援発表会	京丹波町社会福祉協議会
	看護職・介護職員リハビリテーションステップアップ研修	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
	単なる「移動」だけにしない動作介助とポジショニング	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
11 月	生産性向上セミナー	京都府
	認知症介護基礎研修	認知症介護研究・研修仙台センター
	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
	オーラルフレイルに対する評価と対策	南丹圏域地域リハビリテーション支援センター
	難病患者等ホームヘルパー養成研修	京都府
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
12 月	高齢者の低栄養に対する栄養指導	南丹圏域地域リハビリテーション

		ション支援センター
	サービス提供責任者研修	京都府介護福祉士会
1 月	処遇改善取得セミナー	京都府
	民生委員とケアマネジャー等との懇談会	京丹波町
	アサーション研修	京都府社会福祉協議会
	京都丹波オレンジロードつなげ隊企画会議	南丹地域包括ケア推進ネット
2 月	介護支援専門員更新研修	京都府
	能登半島地震から考えるホームヘルパー事業所の BCP 再点検	京都府ホームヘルパー協会連絡会
	介護事業者のための業務継続計画策定後の研修及び訓練に関するオンデマンドセミナー	株式会社エーフォース
	京丹波町地域包括ケア推進委員会	京丹波町
3 月	南丹在宅医療連携研究会	船井医師会
	科学的介護情報システム説明会	厚生労働省
	福祉避難所サポートリーダーフォローアップ研修	京都府
	南丹圏域障害者総合支援ネットワーク全体会および障害者虐待防止研修	南丹圏域障害者総合支援センター結丹
毎月	地域ケア会議	京丹波町

◆広報活動・その他

①情報発信

広報誌『クローバーだより』を毎月約 400 部発行し、会員、利用者、関係機関等に配布しホームページにも掲載した。フェイスブックによる発信も随時行った。

◆「助け合い」事業

利用者は年間 14 人であった。前年度同様介護保険超過分の振替分は少なく回数、時間数共に半減となった。院内介助、買い物付き添いが主であったが、除草作業、書類提出の代行、転居に伴う荷物の整理や夜間対応等多様なニーズに応えることが出来た。

住民税非課税の利用者 10 人に対し京丹波町高齢者日常生活支援事業により利用料を減免し、その合計は 43,500 円であった。

〔利用実績〕※利用者数「合計」は、各月利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	4.5	7	2	54	55	98.2%
回 数 (回)	14.5	37	3	174	299	58.2%
時 間 数	11.92	36.00	4.00	143.00	262.00	54.6%

◆外出支援事業（福祉有償運送）

利用者数、回数走行距離共に減少。地域のボランティア移送が立ち上がったことも多少影響はあった。多くは京丹波町病院、明治国際医療大学附属病院、京都中部総合医療センター等近隣の医療機関であったが福知山市立病院や京都市内病院へ送迎もあった。運転員を2人増員することにより運転員を兼務していた職員が主たる業務に当たることが出来た。

一昨年より実施している相乗りによる送迎も91件行い、効率の良い送迎を実施することが出来た。

〔利用実績〕

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	62.3	77	53	748	771	97.0%
回 数 (回)	224.9	274	165	2699	2796	96.5%
走行距離(km)	2175.1	2759.3	1744.7	26101.7	27906.8	93.5%

◆障害者居宅介護・重度訪問介護事業

今年度も重度訪問介護の依頼は無く利用者は無し。

障害者居宅介護は新規利用者1人、死亡等による利用停止2人で年度末時点での利用者は10人であった。利用者のニーズに事業所が応えられなくなり、他の事業所に引き継ぐ事例が1件あった。

主には、家事援助・身体介護であったが、通院付き添い、外出時の付添といったニーズにも応えた。

〔利用実績〕

	月 平 均	最 多 月	最 少 月	本 年 度 合 計	前 年 度 合 計	対 前 年 度 比
利用者数(人)	11.9	14	10	143	135	105.9%
回 数 (回)	80.1	106	52	961	1,242	77.4%
時 間 数	87.02	109.0	63.75	1044.25	1242.25	84.1%

◆介護保険事業

①居宅介護支援（ケアマネジャー）

前年度と変わらずケアマネジャー3人体制。

新規の利用が 31 人、入所・死亡等による利用停止が 19 人であり年度末の利用者は 72 人。前年度、他事業所の人員体制の変更や事業所閉鎖に伴い利用者を引き継いだ事例が 5 人、新規の依頼も多く前年度と比べ 13 人増加している。

和知地区の事業所の利用者を引き継ぎが 2 人あり、新規も 1 人。和知地区の利用者が 3 人となっている。

年末には職員 1 人がインフルエンザ感染症に罹患、担当 2 人体制を生かせず居宅訪問が未実施となり、減算処理をする事例があった。

職員 2 人が資格更新研修を修了した。

1 人が京丹波町ケアマネジャー協議会の役員となり、地域ケア会議の運営に携わった。ケア会議や地域の民生委員との懇談会にも出席し、地域課題の解決やケアマネジャーの質の向上につながった。

1 人が京丹波町地域包括ケア推進委員等に参加し、京丹波町の施策に反映されるよう現状や課題を発言した。

〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本 年 度 合 計	前 年 度 合 計	対 前 年 度 比
件数	介護	65.3	73	56	783	696	112.5%
	総合 (予防)	3.2	4	2	38	49	77.6%

②訪問介護（ホームヘルパー）

新規利用者は15人で、入院、死亡等による利用停止は13人、年度末での利用者数は41人であった。利用者数は昨年と変わらずであったが、契約後すぐにお亡くなりになったり、入所されたりするケースが多く回数、時間数共に減少した。

退院後の身体介護のケアで関わっていた利用者が数ヶ月で自立され、利用停止になるという事例もあった。

人員の都合に苦慮しながらも、新規の依頼にもできるだけこたえられるよう人員配置を工夫しながらの運営であった。

事務作業軽減、ペーパーレス化を図るため、次年度からの運用を目指し、記録簿の電子化に着手した。

管理者が京都府介護福祉士会主催の「サービス提供責任者研修（全6回）」を受講し、サービス提供責任者としての業務確認、リーダーとしての専門性の認識等を確認した。

〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者 数(人)	介護	36.3	39	32	435	435	100.0%
	総合	2.4	3	2	29	31	93.5%
回 数 (回)	介護	433.1	481	403	5,197	5,671	91.6%
	総合	8.8	13	4	105	166	63.3%
時間数 (時間)	介護	400.60	442.17	346.75	4807.25	5347.17	89.9%
	総合	8.96	13.00	4.00	107.50	164.50	65.3%

③通所介護（デイサービス）

新規利用者が15人、施設入所や死亡による停止が11人であった。登録者数は年度末で41人であった。

登録者は増加したが、複数回利用の方が減少、入院やショートステイ利用の方も多く、年度末のコロナ感染症蔓延による利用者の絞り込みもあり、延べ利用者数は減少した。

瑞穂小学校に利用者が手縫いした雑巾の寄付を行い、みずほこども園や京丹波町社協デイサービスほほえみとの交流やバイオリンコンサート、ボランティアサークル「カナリア」による演奏会、「花かご」による絵手紙体験の開催、利用者作品の京丹波町文

化祭出展、京丹波町移動図書館の活用など地域や他事業所とのかかわりを持ちながらの運営を行った。

地域密着型通所介護運営推進会議をデイサービスほほえみと共同で11月に開催し、避難訓練を11月と3月に行った。

2月には大雪の為、職員、利用者の安全が確保できず1日休業する日があった。

3月に京都府社会福祉施設等生産性向上・人手不足対策事業費補助金を受け、タブレット2台を配備し、事務作業の効率化を図った。

清掃ボランティア1人に協力を得た。

〔利用実績〕

		月 平 均	最 多 月	最 少 月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.6	27	23	307	308	99.7%
利用者数 (人)	介護	40.0	42	38	480	419	115.4%
	総合	1.8	4	0	22	29	75.9%
延利用者 数(人)	介護	311.6	361	275	3,739	3,802	98.3%
	総合	5.8	14	0	69	111	62.2%
1 回平均 (人)		12.4	13.6	11.2	12.4	12.7	97.6%